

ホンモロコで休耕田復活

～食べて知る淡水魚の美味しさ～

水産科3年 佐藤祐貴 鈴木俊佑 伴佳奈美

1. はじめに

私たちは、今年も昨年につきホンモロコの研究を行いました。昨年は、那珂川町ホンモロコ研究会、那珂川町役場ごはんDE笑顔選手権関東大会出場、関東東海地区水産・海洋系生徒研究発表会に出場し優秀賞を受賞しました。今年は去年の研究の反省をもとに安定した種苗生産をするという目標をたてました。

2. 今年の活動

- 1) 安定した種苗生産へチャレンジ
- 2) 学校裏の久名瀬ホンモロコ生産組合への協力



3. 材料と方法

材料となるホンモロコの親魚は昨年本校で採卵したホンモロコを使用しました。

採卵の方法は昨年と同じく親魚池にキンランを入れ採卵しました。キンランは昨年作ったビニール製のキンランの他、古い網等をまとめた物も使用し、とにかく採卵していきました。水深40センチのハウス内にある32号池で孵化させて飼育していきました。

4. 結果

採卵、孵化までは100kg以上の生産をあげられる数の稚魚を得ることが出来ました。ここまで成功と言えます。

しかし、孵化した稚魚をハウス内の水深の浅い池で飼育しましたが、アミメアオミドロの発生と共に半分以下に減らしてしまいました。浅い池での中間育成は非常に難しく水深のある池でそのまま孵化させたほうが良いことが分かりました。

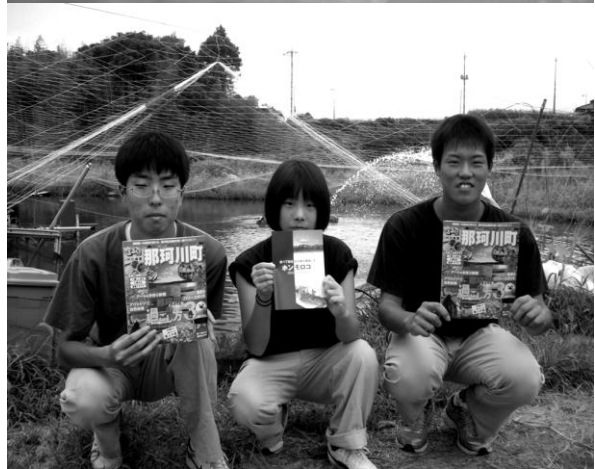
また、一度に大量の卵を得ることが出来ず、何回にも分けて採卵しました。これが、大きな課題です。

5. 考察

- 1) 水深の浅い池で管理しながらの育成を考えていましたがアオミドロの発生を抑えられず死んでしまったことから、卵は濁りのある泥池ではじめから出荷まで飼育したほうが効率の良いことが分かりました。分かっていたことでしたがアオミドロの繁殖力を甘く見ていました。
- 2) 大量の卵を採卵する方策はキンランの投入するタイミングの調整を水温・水位日長等考えられることすべてを試して感覚をつかむ必要があると思います。親魚の数もこれまで以上に持たなければならないのではないかと思います。

6. 2年間研究した感想

那珂川町ホンモロコ研究会、久那瀬ホンモロコ生産組合、那珂川町役場、水産試験場など周りの協力によりなんとかここまで来ることが出来たのでとても感謝しています。ホンモロコ養殖が広まり始め、地域の行事で試食会を行ったり他県で発表を行ったりと、とても充実したものになりました。



7. おわりに

今年はガラルファの研究に校内選考で負けてしまい、大きな場所での発表はできませんでしたが、久那瀬ホンモロコ生産組合のホンモロコの取り上げ時には多くの報道の方がいらして、私達も取材してもらいました。また、1月には水産ジャーナリストの会より、年度賞を頂くことが出来ました。本当に充実した2年間の研究でした。お世話になった多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。